

前回委員会(2004.9.29)以降の状況報告

1. 状況報告	1
2. 結果報告	2
・第2回3ダムサブWG(2004.9.11)結果報告	
・第25回淀川部会(2004.9.17)結果報告	
・第2回余野川ダムサブWG(2004.9.22)結果報告	
・第5回ダムWG(2004.9.23)結果報告	
・第38回運営委員会(2004.10.12)結果報告	

1. 状況報告

①第2回3ダムサブWG

・9月11日(土)に標記会議が開催されています。結果報告については、本資料2ページをご参照下さい。

②第25回淀川部会

・9月17日(金)に標記会議が開催されています。結果報告については、本資料4ページをご参照下さい。

③第2回余野川ダムサブWG

・9月22日(水)に標記会議が開催されています。結果報告については、本資料6ページをご参照下さい。

④第5回ダムWG

・9月23日(木)に標記会議が開催されています。結果報告については、本資料8ページをご参照下さい。

⑤第6回ダムWG

・10月4日(月)に標記会議が開催されています。結果報告については、現在確認作業中です。

⑥第38回運営委員会

・10月12日(火)に標記会議が開催されています。結果報告については、本資料11ページをご参照下さい。

⑦第28回琵琶湖部会

・10月13日(水)に標記会議が開催されています。結果報告については、現在確認作業中です。

⑧第7回ダムWG

・10月18日(月)に標記会議が開催されています。結果報告については、現在確認作業中です。

⑨第26回淀川部会

・10月19日(火)に標記会議が開催されています。結果報告については、現在確認作業中です。

⑩第22回猪名川部会

・10月21日(木)に標記会議が開催されています。結果報告については、現在確認作業中です。

注) 第2回3ダムサブWGから第5回ダムWGは、第33回委員会資料で結果報告が確認中でした。

開催日時： 2004年9月11日（土）13：15～17：00

場 所： ピアザ淡海 3階 大会議室

参加者数： 委員 16名、河川管理者（指定席）10名、一般傍聴者（マスコミ含む）40名

1 審議の概要

①天ヶ瀬ダム再開発に伴う「塔の島」地区の河川整備について

河川管理者より資料 1-1 の説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・「塔の島」地区の河川整備では、1,500m³/s が検討の前提となっているが、1つの検討結果を示されただけでは、委員会として議論ができない。どの程度の河道掘削が最適かについて検討するために、例えば、放流量が1,000m³/s ならどの程度の河道掘削になるのかといった検討結果を示さなければならない。

←1,500m³/s 以外の場合に琵琶湖沿岸の浸水被害がどの程度軽減されるのか、もっとも効率の良い放流量を検討した結果、現況の放流量から 1,500m³/s までの範囲であれば、整備すればするほど、効果があるとの結果が出て、歴史的経緯や政治的背景から 1,500m³/s が必要最低の放流量ではないかということなどで検討を進めた。もちろん、だからといって、1,500m³/s でなければならないということではないので、1,500m³/s 以外の検討も行いたい（河川管理者）。

- ・亀石のフォトモンタージュは、それぞれ視角が異なっているので、統一すべきだ。

←今後、さまざまな角度からのフォトモンタージュを示したい（河川管理者）。

- ・塔の島地区をどのように 0.8m 掘削するのか。河床の横断面図を示す必要がある。

←資料が見難いので、あらためて資料を提供したい。河川の横断系等まで精査できていない面もあるため、今後、きちんと示したい（河川管理者）。

②高時川の瀬切れのメカニズム

河川管理者より資料 1-2 の説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・河川管理者の説明によれば、高時川頭首工が完成する以前の瀬切れについてのデータが不明とのことだが、地元の方に聞けば良いのではないか。

←頭首工と瀬切れ増加の関係を分析するためには、「何月何日にどこに瀬切れがあったか」までのデータが必要なため、6年間のデータを用いて説明した。住民の方の話も伺ったが、客観的・定量的なデータが得られるまでには至っていない。（河川管理者）。

③丹生ダム貯水池および高時川の水質予測

河川管理者より資料 1-3 の説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・本当に、放流 S S（懸濁物質）による問題は起きないのか。検討結果には多少疑問を覚える。

←検討対象となった過去 11 年間に大きな出水がなかったことも今回の結果に影響しているため、過去まで遡って検討を行い、どの程度の出水があればどの程度の濁水になるのか、調査したい。また、今回は、選択取水設備を使用するという条件で検討した（河川管理者）。

- ・丹生ダムの富栄養化が琵琶湖に与える影響について、どのような検討を行っているのか。

←現在のところ、丹生ダムではアオコが発生する可能性は低いと考えられているが、丹生ダムの水を琵琶湖へ放流すると琵琶湖にどのような影響を与えるかといったことも視野に入れて検討している（河川管理者）。

- ・ 渇水時に丹生ダム1箇所から琵琶湖に水が補給された場合、琵琶湖の水質や環境等はどうなるのか。河川管理者には、是非、検討してほしい。平成6年の渇水時、河川からの流入がなくなったため、琵琶湖の水質は非常によくなった。特に水のきれいな北湖に、丹生ダムから一気に水が補給されるとかなりの影響が出るのではないかと。

←現在のところ、そこまでの検討はできていない。渇水時に丹生ダムからの補給水が琵琶湖に流入する水の全体に占める割合も含めて、調べてみたい（河川管理者）。

④「琵琶湖の水位低下抑制」と「異常渇水時の緊急水の補給」

河川管理者より資料1-4-1、1-4-2の説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・ 検討の条件設定に疑問を感じる。例えば、もっと早い時期から取水制限を開始すればどうなるのか、検討してみるべきだろう。また、丹生ダムができれば結果はどのように変わるのか。

←利水者の協力が得られれば、より早い時期から取水制限を行うことができる。また、丹生ダムの全容量を補給水として使えるかどうかかわからないが、できるだけ対応する（河川管理者）。

- ・ 琵琶湖の水位操作そのものを改善していかなければならないだろう。また、大阪府営水道の水需要予測が下方修正されつつあり、これも考慮しておく必要がある。

- ・ 丹生ダムの1億m³を補給水として使うことができれば、琵琶湖の水位が約10cm回復できるとのことだが、10cmで琵琶湖の環境がどれほど改善できるのか、疑問だ。

←取水制限日数や制限率が減少するといった社会的な効果は期待できる（河川管理者）。

2 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者3名より発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・ 河川管理者が実施している住民説明会で出た意見がダムWGには反映されていない。地元の意見を踏まえた議論してほしい。委員会と地元住民との対話討論会の開催を検討してほしい。

- ・ ダムWGは、河川管理者の検討結果に対して、バックデータまで求めていくべきだ。また、委員の検討に必要なデータを河川管理者に要求していかなければならない。

- ・ 塔の島地区の1,500m³/sそのものの必要性について、もっと議論を深めてほしい。琵琶湖沿岸の浸水被害が約7戸なら、かさ上げによる対応の方がよい。また、1,500m³/sを長期間放流するための堤防補強に必要なコストを明らかにしてほしい。

- ・ 塔の島地区のフォトモンタージュについては、地元の住民説明会で不十分であるとの意見が出た。影響のある全ての場所でフォトモンタージュを作成するべきだ。

- ・ 参考資料1に、大阪府営水道の水需要予測の下方修正について意見が出されている。委員会は、この件について、府営水道と大阪市水道局を招いて説明をしてもらった方がよいと思う。

- ・ 高時川の瀬切れは頭首工の運用ルールを決めておかなかったことが原因であり、人為的な問題だ。これをダムで解消するのは、農業用水のためにダムから水を補給するのと同じことだ。

3 今後のスケジュールについて

庶務より今後のダムWGのスケジュールについて説明が行われた後、今本ダムWGリーダーより「ダムWGとサブWGを同時開催の方がよいので、今後のスケジュールについては変更となる可能性がある」との説明が行われた。

※ このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。

第 25 回淀川部会 (2004. 9. 17 開催) 結果報告		2004.10.8 庶務発信
開催日時:	2004 年 9 月 17 日 (金) 10 : 00~13 : 00	
場 所:	ばるるプラザ京都 5階会議室A	
参加者数:	委員 14 名、河川管理者 (指定席) 17 名、一般傍聴者 (マスコミ含む) 72 名	
<p>1 決定事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の部会では、河川整備計画進捗状況の点検について議論する。 <p>2 審議の概要</p> <p>①天ヶ瀬ダム再開発について</p> <p>河川管理者より資料 4-2 (第 2 回ダムWG)、資料 1-4 (第 4 回ダムWG)、資料 1-1 (第 2 回 3 ダムサブWG) を用いて説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り (例示)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 左岸車線の減少や橋脚化等によって、川幅を広げるのは無理か。0.8mも水面が下がると景観はかなり変わってしまうだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ←1,500m³/s を流すためには、おそらく道路がなくなってしまうまで川幅を広げる必要が出てくる。また、道路の橋脚化については、橋脚の本数が増えると思われるため、洪水がうまく流れてくれるかどうか、よくわからない (河川管理者)。 ・ 塔の島地区の流量は天ヶ瀬ダムの放流によって (人為的に) 決まるため、堤防の状況を見ながら、流せそうであれば、HWLを超えて、余裕高まで食い込んで洪水を流すといった運用を検討できないか。例えば、余裕高をいくらか減らして、余分に洪水を流すことはできないのか。 <ul style="list-style-type: none"> ←右岸の道路部分には余裕高がない。このため、今回の検討では他の部分と同程度にするために 30~40cm 嵩上げを行うという前提で検討を行った。これ以上嵩上げをすると、全体を同時に嵩上げしなければならなくなる (河川管理者)。 ・ 越水しても壊れない鉄壁の堤防であれば、天端まで洪水を流す計算をしてもよいだろう。堤防の余裕高まで食い込んで洪水を流す検討ができない理由の 1 つは、やはり、堤防の信頼度が低いことにある。このため、今後は個別の堤防の強度を検討していく必要がある。 ・ 1,500m³/s 流れるとしたときに、三川合流地点の出発水位はいくらで設定しているのか。 <ul style="list-style-type: none"> ←三川合流地点の出発水位については、洗堰を全閉した後の全開のタイミングで、下流の水位が下がり始めたときという設定にしてある。ただし、HWLではなく、計算上の水位を設定して、水面形をついている。さらに、出発水位を下げた場合の試算も行ったが、塔の島地区は急に勾配が上がる地点なので、ほとんど変わらなかった。まだ照査はできていないが、でき次第、資料を提出したい (河川管理者)。 ・ 塔の島地区の堤防および河岸は、一定の信頼度があり、現況において 1,100m³/s 流れる能力はあるが、堤防ギリギリまで流れ、ほぼ余裕がない状況となる。ただしこの場合においても、一部の箇所で浸水する程度で懸念されるほどではない。今後のダムWGでは 1,500m³/s の歴史的な経緯や琵琶湖沿岸の浸水被害軽減の必要性も踏まえた上で、塔の島地区の特殊な地理的条件を前提にして議論を進めていく必要がある。 <p>②大戸川ダムについて</p> <p>河川管理者より資料 1-4 (第 4 回ダムWG) を用いて説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り (例示)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 1-4 (第 4 回ダムWG) の検討結果によれば、5313 型降雨の降雨確率 1.0 倍のケースであれば大戸川ダ 		

ムは不要であると理解してよいのか。

←5313 型降雨の降雨確率 1.0 倍のケースでは、天ヶ瀬ダムの下流については、天ヶ瀬ダム再開発が行われると、大戸川ダムの効果はないということになる（河川管理者）。

・ 5313 型降雨の降雨確率 1.0 倍のケースで、大戸川流域で浸水被害は発生するのか。

←現況河道であれば、大戸川下流で氾濫するという解析結果が出ている。資料については、後日まとめて、提出したいと考えている（河川管理者）。

・ 大戸川と瀬田川の合流地点では、河床掘削は行われているのか。瀬田川で実施されている河床掘削と合わせて、大戸川の掘削が行われれば、大戸川の流下能力は向上するのではないのか。

←大戸川の河床掘削は、まだ行われていない（河川管理者）。

・ 大戸川流域では、過去に何度か災害に見舞われているが、河川整備は進んでいるのか。ダムが計画された途端、河川管理がないがしろにされるというのは、非常に大きな問題だ。高時川にしても、河道内樹木が放置されている。ダムができるまでに洪水が来る可能性もあるため、ダムとは別にきちんと管理をすべきだ。

←滋賀県の管理区間の河川改修率は、大戸川ダムの計画を見込んでいるため、とても低い（河川管理者）。

・ 大戸川の堤防は、どのような整備状況にあるのか。河川管理者の検討では、滋賀県が管理している区間の堤防については、どのように扱われているのか。滋賀県との協議が進んでいないとすれば、それは大いに反省しなければならない。

←ダムの代替案を考える際には、当然、現況の堤防や河道の評価もしなければならないので、現在、滋賀県のデータ等を収集している。どの程度の検討結果が示せるかについては、滋賀県との協議が済んでいないので、明言はできない（河川管理者）。

・ 大戸川ダムの検討をしていくために、河川管理者には、現在の大戸川の堤防の状況、現在の堤防でどの程度の流量に耐えられるのか、被害が出ればどの辺りにどの程度の被害が及ぶのか、といったことがわかる資料の提供をお願いしたい。

・ 新潟の洪水被害は、破堤による壊滅的な被害だ。破堤しなければ、あれほどの大きな被害ではなかった。流域委員会の治水の理念は、この破堤による壊滅的な被害を解消しようとする事だ。しかし、これまでは、ダムの効果が過大評価され、堤防への役割分担がないがしろにされてきた。現在の堤防でも越水しても破堤しように強化すれば、多くの被害を解消できるはずだ。やはり、現実の堤防がいったいどのような状況になるのか。堤防の信頼度の検討がどうしても必要になってくる。

3 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者 1 名より発言があった。主な意見は以下の通り。

傍) ダムは国交省の管轄だが、その代替案（河床掘削や堤防強化）は滋賀県の管轄になるだろう。その場合、予算や工期の問題から、代替案の実現が非常に難しくなってしまうのではないのか。ダムに逆戻りしないよう、お願いしたい。

※このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果をお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。

第2回余野川ダムサブWG会議（2004.9.22開催）結果報告		2004.10.15 庶務発信
開催日時：	2004年9月22日（水）13：05～16：45	
場 所：	梅田センタービル 18階会議室H	
参加者数：	サブWGメンバー委員6名、サブWGメンバー外委員5名、河川管理者6名 一般傍聴者（マスコミ含む）38名	
<p>1. 審議の概要</p> <p>①狭窄部上流の目標洪水の見直しについて</p> <p>河川管理者より当日配付された資料「猪名川狭窄部上流の浸水被害に対する目標洪水の見直し」を用いて説明が為された後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料には、主な4洪水の流域平均日雨量が記載されているが、今後はこの4つの日雨量をベースに狭窄部上流の目標洪水を選定することになるのか。目標洪水については、引き延ばし降雨ではなく、あくまでも実績降雨（既往最大）を対象降雨とするべきだ。 <ul style="list-style-type: none"> ←4つの洪水だけではなく、昭和47年や平成元年といった大きな洪水も含めて、目標洪水の見直しを行っていく（河川管理者）。 <p>②余野川ダム計画、およびダム代替案について</p> <p>河川管理者より資料 1-1「余野川ダム代替案に係わる資料」、資料 1-2「余野川ダム計画に関する調査検討 追加説明資料」を用いて説明が為された後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。</p> <p>○ダム建設の是非（代替案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ダムWGは、ダム建設の是非について議論すべきだ。余野川ダムの場合は、一庫ダムの利水容量振替が銀橋上流の浸水被害の軽減のために有効なのかどうかについて、議論すべきだろう。 一庫ダムの嵩上げや遊水池等の複数のダム代替案を実施した複合案の検討は進んでいるのか。 <ul style="list-style-type: none"> ←複合案についても今後も引き続き検討を行っていく（河川管理者）。 ダムは必要だと考えている。長い目で見れば、気候変動によって世界的に水が不足する時代がくるだろう。きれいな水に恵まれた日本では、貯められるところではできるだけ貯めておいたほうがよい。ダム建設技術の保存という観点からも、ダムはつくっておくべきだ。 <p>○堤防強化と狭窄部開削について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料 1-2 には、上流から逐次破堤した場合の浸水被害が示されているが、一度にこれだけ多くの破堤が発生するとは思えない。破堤による被害を累積したような印象を受ける。 <ul style="list-style-type: none"> ←確かに上流から逐次破堤していく可能性は低い。今回の検討結果は、各所で破堤が発生した場合の浸水被害を網羅したもの。実際にこれだけの被害が出るというものではない。現在のところは、降雨と被害と効果を示しただけであり、この資料がダム建設が必要な理由だとは全く考えていない（河川管理者）。 ←今回の検討は、堤防強化後（浸透および浸食対策）を前提に、天端一余裕高で破堤するという条件で行った。必ずしも、天端一余裕高で破堤するという条件ではない。今後、このパターン以外の検討結果についても示していく（河川管理者）。 資料 1-2 で示されている銀橋上流の浸水被害は、破堤による被害なのか。河道掘削によって流下能力を高めれば、銀橋上流の浸水被害は低減するのではないか。 <ul style="list-style-type: none"> ←銀橋上流は堀込河道として扱っているので、破堤ではなく、越水による被害である。また、銀橋だけを 		

河道掘削しても、おそらく浸水被害はあまり変わらないと思われるが、河道掘削についても検討してみたい（河川管理者）。

- ・ 緊急性という観点から考えれば、まずは破堤が予測される箇所の堤防補強から実施していくべきだ。
←越水しても破堤しないための堤防強化手法については、現在のところ、十分な検討ができていない。今後、コスト・工期・環境への影響を考慮して、妥当な方法を検討していく（河川管理者）。
- ・ 河川管理者にお答え頂きたい。昭和 28 年 9 月 1.8 倍の時間雨量のピーク流量はいくらなのか。また、1.8 倍の時間雨量のピーク流量は、流量で 1.0 倍の場合の何倍になるのか。
←本日は資料を持ち合わせていないので、後日、あらためてお答えしたい（河川管理者）。

○一庫ダムの利水振替について

- ・ 一庫ダムの利水容量振替は、余野川ダムではなく、大阪府と大阪市への振替を追求して欲しい。どうすれば、大阪府や大阪市が振替を受け入れてくれるのか、きちんと分析をして、行政的に振替が可能かどうかを検討してほしい。特に、大阪市への振替によって、大規模な利水振替が可能だと考えている。
- ・ 農業用水の精査確認によって、一庫ダムの振替可能な容量が増大する可能性が出てくる。農業用水の精査確認状況について教えてほしい。←現在も引き続き調査検討を行っている（河川管理者）。

③今後のサブダムWGの位置付け、開催スケジュールについて

庶務より資料 2「委員会における今後のスケジュール」を用いて、猪名川部会と余野川ダムサブWGの経緯と今後のスケジュールについて説明がなされた後、意見交換が行われた。

- ・ 地域別部会では、ダムについて、特にポイントを絞った議論をお願いしたい。地域別部会でも、ダムWGやサブWGと同じように議論をしてほしい。サブダムWGには、各ダムの意見書の素案を作成して欲しいと思っ
ている。それをダムWGで再検討し、各ダム間で意見の調整を行い、委員会に提出すればいいのではないかと考
えている。
- ・ 猪名川部会、ダムWG、サブダムWG、それぞれの目的を整理したうえで、開催した方がよい。
- ・ 今後、余野川ダムについては、猪名川部会でもサブWGでも議論をする。部会とサブWGで意見のキャッチボ
ールしながら議論を進めていきたい。

2 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者 1 名より発言があった。主な意見は以下の通り。

傍) 一庫ダムの利水容量振替は、大阪府営水道分の 179 万 m³を検討しているが、この他にも兵庫県や川西市分の 450 万 m³の振替も可能だ。委員会は、179 万 m³の振替を実現するためにクリアすべき条件、さらに 450 万 m³の振替を実現するためにクリアすべき条件について、明確にしながら審議を進めて欲しい。

←一庫ダムの利水振替を兵庫県や川西市にも広げてはどうかということだと思うが、その場合には水道管の拡大や浄水場の増強等の問題が出ると思われる。阪神水道についても、今後も精査確認をしていくが、大阪府営水道と同じようには行かないと思っている（河川管理者）。

傍) 余野川ダムは流域の 7%しかカバーしておらず、アンバランスな降雨の場合には、余野川ダムに下流域への治水効果があるのかどうか、疑問に思っている。余野川ダムの下流への効果が本当に有効なのかどうか、審議をして欲しい。

以上

※このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。

第5回ダムWG会議（2004. 9. 23 開催）結果報告

2004.10.15 庶務発信

開催日時：	2004年9月23日（木）13：00～17：25
場 所：	京都リサーチパーク 地下1階 バズホール
参加者数：	WGメンバー委員 20名、 WGメンバー外委員 9名、 河川管理者（指定席）33名 一般傍聴者（マスコミ含む）71名

1 審議の概要

※今本リーダーより今回のWGの進め方について説明がなされた後、河川管理者より配付資料（資料 1-1「川上ダムの代替案について」、資料 1-2「猪名川狭窄部上流の目標規模の再検討について」、資料 1-3「治水経済調査マニュアル（案）」）の説明が行われた。その後、ダムWGごとに意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

① 3ダムWG

- ・河川管理者は、琵琶湖の高水位をどこまでなら許容範囲可能だと考えているのか。
 - ←現在は、常時満水位を 30cm としており、これを超えると速やかに水位を下げるというルールで操作している。30cm を超えるとすぐに浸水被害が発生するかどうかは、浸水被害の定義にもよるが、かんがい期であれば水田が水に浸かる程度で実被害はないだろうし、刈り入れ期であれば何らかの影響は出てくるだろう。こういった目安として常時満水位 30cm が決定されたと考えている。許容水位については、仮に決めるとしても河川管理者の一存で決められるものではないと思っている（河川管理者）。
 - ←明治 28 年 9 月の雨が降れば、現在でも琵琶湖周辺で大きな浸水被害が発生する可能性もあり、高いレベルの降雨まで想定して、現在の制限水位等が決められている。瀬田川からの流出量は限られているため、琵琶湖の水位をあらかじめ下げておくという手段をとらざるを得ないという考え方で、現在のところは進んでいる（河川管理者）。
- ・河川管理者にお願いしたい。琵琶湖の水位操作、特に夏期制限水位を前提にさまざまな検討が進められているが、仮に夏期制限水位を BSL±0 cm した時にどんな問題が発生するのか、特に治水上の問題点を中心としたシミュレーションを行って欲しい。

○環境振替の論理について

- ・環境振替の論理（琵琶湖の環境改善のためにダムを建設する）については、大きく 2つの考え方に分かれた。1つは、そもそも琵琶湖の環境悪化は洗堰の水位操作に原因があり、まずは現在の水位操作を操作規則制定以前の状態に戻すのが第一であり、そこから再度治水上の問題点を解決していくというのが本来のやり方だという考え方。もう1つは、ダムが環境に悪影響を与えることは確かだが、ダムによってあらたに環境が作られていくなら、両者を比較して次に創成される環境が良ければ、ダムも検討に値するのではないかという考え方だ。前者が多数派だが、議論をお願いしたい。
- ・現状がダムによって改変されても、環境が持続的に良くなればよいという考え方をする場合に問題になってくるのは、ダムによる環境改善効果が客観的・合理的に説明できるかどうかということだ。現時点は、河川管理者からの説明は不十分であり、合理的な説明にはなっていない。

○高時川の治水対策について

- ・高時川と姉川の堤防の状況を河川管理者はどの程度把握しているのか。福井や新潟の災害では、堤防の点検が十分ではなかったと聞いている。

←堤防や地盤の土質が分からなければ、浸透や侵食に対する堤防の評価ができない。このため、過去のデータや新たなボーリング調査によって、概略ではあるが、調査検討をすすめている。高時川の治水については、現在のところ、一般的な代替案を示しているが、9/25に地域住民への丹生ダム代替案の説明会が開催されることになっており、この中で、現在の検討の進捗状況について示すことになっている（河川管理者）。

○利水について

- ・丹生ダムの目的として、異常洪水時の対策が挙げられている。ダムWGでは、利水についてはあまり議論ができていない。長期的に考えれば、湖北地方で雪が降らなくなるかも知れないので、そういったことも考慮しておく必要があるのではないかと。
- ・河川管理者から水需要の精査確認がいまだに示されていない。なぜか。
 - ←利水者の見直し作業は進んでいる。ダムWGの検討スケジュールについても、各利水者に説明し、ダムWGの検討に間に合わせるよう精査確認を進めている。ダムWGの検討に合わせて利水の精査確認について説明をしたいと思っている（河川管理者）。
 - ←水需要の精査確認をすと言ってから、約3年が経っている。確かになかなか精査確認作業が進まなかった。利水者からはデータが出てこず、作業も進まなかった。しかし、今年になり、大阪府営水道をはじめとした利水者が、自ら精査確認に動き出した。利水者の見直し作業をさしおいて、河川管理者で決めてしまうわけにも行かないと思っている。先日、利水者にもダムWGの検討スケジュールを伝え、これに間に合うよう見直して欲しい、もし間に合わないようであれば説明できる範囲で結果を出して欲しいと伝えた。ぜひとも、ご理解をお願いしたい（河川管理者）。

②川上ダムWG

○河川管理者よりスライドを用いて、堤防強化と破堤開始水位の関係、中国長江の堤防、越水しても破堤しない堤防について説明がなされた。

- ・川上ダムは、河川における洪水を解決するためにダムが必要かどうかを検討していかなくてはならない。検討の流れとしては、目標とする洪水の規模をどうするのかを考え、その流量を河道でどれくらい分担するのかを決め、それでも対応しきれない流量を各代替案でどれだけ分担できるのか、費用対効果と環境への影響はどうなるのかといった流れで審議していかなくてはならない。
- ・河道にどれだけの水が流せるかを計算する際には、天端まで流せるという前提で流量を求めていくべきだろう。
- ・対象とする洪水をどの程度にするのか。地域の要望や予算等を考慮して、決めればよいことだとは思いますが、対象洪水の考え方について、議論を詰めておいた方がよいだろう。
 - ←委員会と河川管理者でズレがあるのは、「既往最大」の捉え方だ。委員会は既往最大の実績降雨から出てくる流量を、河川管理者は実績降雨をさまざまな雨の降り方まで考慮した結果としての流量を既往最大の洪水だと考えている。それぞれ、どういう被害が出て、どう克服していくかについて検討して、地域の方々や委員会に説明をした上でどちらかを決めればよいと思っている（河川管理者）。
- ・到底達成できない目標を掲げて整備を行ってきたが整備が完了していないということを考えれば、実現可能な目標を代替案等も合わせて対応していくというやり方は、後退ではないと思っている。

③余野川ダムWG

○対象とする洪水の規模について

- ・昨日の第2回余野川ダムWGでは、河川管理者より、昭和28年9月洪水の1.0倍、1.5倍、1.8倍における下流域の被害予想と余野川ダムの効果について、説明が行われた。しかし、猪名川の計画高水流量は、引き延ばし降雨ではなく、既往最大の実績降雨にするべきだ。引き延ばし降雨は既往最大より大きな被害想定を容易に作り出すので、採用すべきではないと考えている。

←狭窄部上流の目標とする洪水の規模は既往最大で考えているが、下流域の目標規模は基本的にはない。下流域については、どのような洪水が来ても破堤による壊滅的な被害は回避なり軽減するということを目標にしているため、目標規模を決めていない。昨日の余野川ダムWGで示した昭和28年9月の1.5倍と1.8倍の被害想定図は、そういう雨も降る可能性がある。例えば、その時に余野川ダムがあればどれだけの効果があるかを示しただけであり、1.5倍や1.8倍を目標にすると言っているわけではない。下流域の目標は破堤による壊滅的な被害の回避である（河川管理者）。

←実際に降っていない雨（引き延ばし降雨）を対象にすべきではないとのことだが、たとえば、福井の災害では、降ったことのない雨が降った。過去の実績だけでやっていたら当然同じ被害が発生する。起こりえる洪水を想定して検討するのは間違っていないと思う。しかし、河川整備計画においては、どこまでの洪水を想定するかという議論をしてきて、狭窄部上流については既往最大でやっていたというようになったのが、これまでの流域委員会の議論だったと理解している（河川管理者）。

○ダム建設の是非について

- ・特に利水能力は、近年、どんどん低下していつている。ダムの是非を議論する際には、現在の状況をベースではなく、20~30年先を見越して議論すべきだ。水が貯められる所では、貯めておいた方がよいと考えている。現在検討しているダムは建設した方がよいと考えている。

2 一般傍聴者からの意見：4名より発言があった。主な意見は以下のとおり（例示）。

- ・塔の島地区1500m/sの理由となっている、天ヶ瀬ダム再開発と琵琶湖周辺の浸水被害について、もっと精査すべきだ。
- ・このまま水需要の精査確認が出てこなければ、なし崩し的に、霞ヶ関で来年に行われるフルプランの議論に写っていつてしまうのではないかと危惧している。また、参考資料1として、不十分な利水審議と利水安全度について意見を出したので、ご参考頂きたい。
- ・岩倉峡は、昭和28年以降、自然に開削が進んでいる。河川管理者は、岩倉峡の現在の疎通能力を出した上で検討すべきだ。また、HQ曲線について実際とは違うデータで検討している。既往最大であれば、上野遊水地を含めて考えれば、応可能であり、川上ダムは不要である。
- ・一庫ダムの利水容量の振替先は、大阪府営水道等でも可能。これが実現すれば、余野川ダムの治水上の効果は下流域だけとなる。このあたりに留意しながら、審議を進めて欲しい。

3 今後のスケジュールについて

庶務よりダムWGの開催スケジュールについて説明が行われた後、今本ダムWGリーダーより、10月4日の3ダムサブWGをダムWGに変更して開催したいとの提案が行われ、了承された。

※このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。

第 38 回運営会議 (2004. 10. 12 開催) 結果報告		2004. 10. 13 庶務発信
開催日時 :	2004 年 10 月 12 日 (火) 16:00~18:00	
場 所 :	ぱ・る・るプラザ京都 6階会議室3	
参加者数 :	運営会議委員 4 名 (委員長、利水部会長、治水部会長、環境・利用部会長、住民参加部会長、琵琶湖部会長、淀川部会長) 河川管理者 3 名	
検討内容、 決定事項	<p>1 第 34 回委員会の議事内容について (ダムワーキングにおける検討経緯について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今本リーダーが、ダムについての検討方針 (案) (河川整備計画の目標、ダムについての検討手順、ダムWG報告書の作成) を説明する予定であるが、ここで検討が必要である。 <p>(河川整備計画の目標について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 概ね 20~30 年に達成することを条件とすると、どこまで計画に盛り込むべきか。 ・ 堤防補強は、ダムの建設とは関係なく実施することが基本で、当面は洗堀や浸透を対象とした補強とせざるを得ないが、早急に越水も対象とした補強を行うべきである。 ・ 現状の堤防では、計画高水位までもたないが、河川管理者も重要課題として捉えている。ただ、技術的には対応できても、費用がかかり過ぎる。 ・ 洪水の規模について、既往最大というのは、地域住民の理解や実現可能性を考慮して、柔軟に考えるべきである。 ・ この点は、これまで曖昧になっており、ダムWGできっちりと議論したい。 ・ 環境については、生態系の保全の意味がわからない。環境は種族も含めて変わるもので、意見書では昭和 40 年代の環境ということ述べているが、その表現では上滑りしてしまう。 ・ 環境についても、20~30 年で達成したいという目標を掲げないといけませんが、100 年かかるものこそ実施していかなければならず、その意味では途中でもやむを得ない。 ・ 修復や回復という言葉もあり、一般の人が読んでわかりやすくする必要がある。 ・ 琵琶湖は、環境、治水、利水が絡んでくるため検討は難しいが、両立させないといけない。 <p>(ダムについての検討手順について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダムは最後の手段として考えたい。ダムがないとどのような致命的な問題があり得るのか。また、代替案を考えた時に致命的な問題があるのか、ないのかを触れる必要がある。 ・ 4~5 名でたたき台を作らないと意見を出しにくい、関係者が多忙である。 ・ 11 月初旬までに素案を作成し、11 月の委員会で意見を集め、それを反映したものを 12 月の委員会に出してほぼ確定させ、1 月の委員会で決定するようなスケジュールとなる。 ・ 住民から意見を聞く機会を設けるのがよいかどうか。また、設けるとすれば、どのような方法がよいか。 ・ 検討案が円滑にまとまればよいが、11 月 16 日の第 35 回委員会の結果を踏まえて、実施するとすれば 12 月の初旬か中旬頃となる。 <p>(地域部会における検討経緯について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の進捗状況は資料が提出される度に議論しているが、ダムについては肝心な議論に入れな 	

	<p>いでいる。ダムWGとの関係をどうようにして運営していくべきか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域部会での議論は、ダムWGに反映して欲しい。 ・ 事業の評価については、議論した内容をまとめて、各地域部会から報告して欲しい。 ・ 各地域部会からの報告結果を踏まえて、委員会としては、ここだけは言っておきたいというものを出したい。 ・ 部会とダムWGを一緒に開催することについては、全く問題ない。 <p>2. その他</p> <p>(ファシリテーターから河川管理者及び委員長宛に出された要望の取扱いについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会としては積極的に対応できないが、参考とすべきものは参考にしていく。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 河川管理者は、ダムについての検討を引き続き推進しているところであり、次のダムWG (10/18) には新しい資料を提出できるようにしたい。 ・ 先日の拡大学習会に提出された資料が、新聞報道されてしまったが、途中のものが出てしまうのはどうか。 ・ たたき台を作れば公表と同じことになり、公表方法等は検討させて欲しい。 ・ ただし、委員長から、基本的なルールは周知してもらわなければならない。 <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--

※このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。